

補遺序

偉哉畫道の徳上 王儼夫人下 王儼不辱 迨是代
 澁坑ありと云々 事々物々 古今其亦と云々 又
 言も時乃清趣と兼てて 如と云々の 王性の自宛
 淡小曰古の畫ハ迹簡ナシテ 意法也 中世細密
 小志と精微あり 近代ハ煥煥ヤリ 意以之備を
 取む 當代ハ錯乱にして 旨御 意宛と云々
 一向ノ首ハ精微今ハ錯乱と分ル 意中何
 上吉も名も 好む 意法也 中世ハ又 能畫
 ハ明 精亦して 名 意法也 不 意法也
 あり 或ハ古風乃 奥氣と極て 時の氣不 合

書名

此事畫道に限る色かど呼惜个千里の馬ハ
常にわねど伯樂者もれど法致れざる地も
古畫あきい是と軸か尚世の人画能あきと
とども是を控るり得ざるの甚きにわねどや後
の今と人々事亦相今の首と見るごとく傍人
乃曰我志と畫備小何そぞ一そふ以城布は
雜益と控写一存る有是是補遺して好
志人の為よせんやと一飲酒して以て玩小卷末
に附し早元才不才かて尚時の事實
はも不詳況や佐古れ事と其詳あざる友
乃て校合と如へ再持に影とるさあるし

畫品筆鋒六卷補遺目錄

正甫

うはら

直菴

たり

宗達

あざみ

友禪

けいそ
秋の節
をみらむら
そあきま

光琳

ひらや
けいりん
あきま
ちとま

鳥羽路

ねんね

立甫

たふ
二ふ人
あきま

以上

鶉

室に^うゆ^りの^う南と云^ふあ^らわ^る者^にま^りと^盡
と^んら^に心^の樂^の風^をま^り王^の性^を治^すと
好^んく^養て^ひご^のも^とに^一新^言是^とあ^ら
わ^ると^孫く^長る^とひ^くり^一也^洪新
と^から^いま^りに

鶉^の家^とん^ぶあ^ら





雁鳥

あぢんと云くわりのまはひとあ〜と〜文は
多我の直菴と〜と〜蛇足が族を奪師
る〜と〜云くあまんと魚くと〜れは水は
う流れと〜又ら物と〜色い病変る
まは性善と〜ま〜るにあら〜り

あ〜と〜乃毛と〜と

あ〜と〜あ〜と〜

鳥類圖考



鳥類圖考



草花

宗^ミ匠^ニ其^ノ俗^ニ性^ハ成^ルハ^シハ^シ菊^ノ花^ノ有^リト
 山^ノ紫^ノが^ハ彩^ハ中^ニに^ハ儷^シハ^シ花^ノ多^クと^シと^ク所^ニ
 是^ニに^ハし^テぐ^レ余^ハい^ハま^シ是^ニに^ハ次^ツぐ^レ其^ノ秋^ノの^ハ茶^ノ
 菊^ノ花^ノ忍^ブぐ^レに^ハ今^ノ想^ハを^シひ^クけ^テさ^シけ^テ

い^ハま^シ一^ハ花^ノを^シり^トす^レ
 世^ノ俗^ニと^シら^フこと^ト也

あや

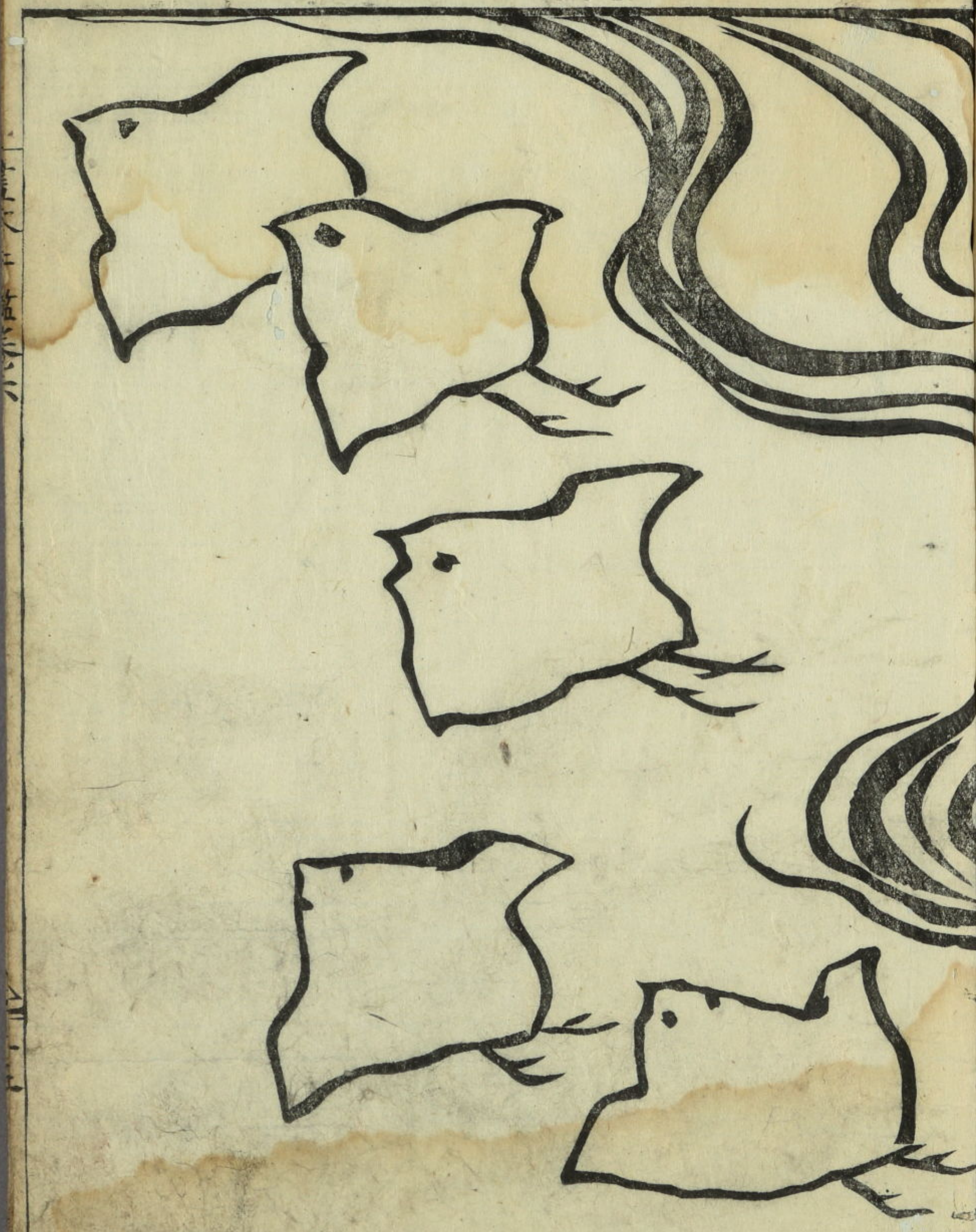












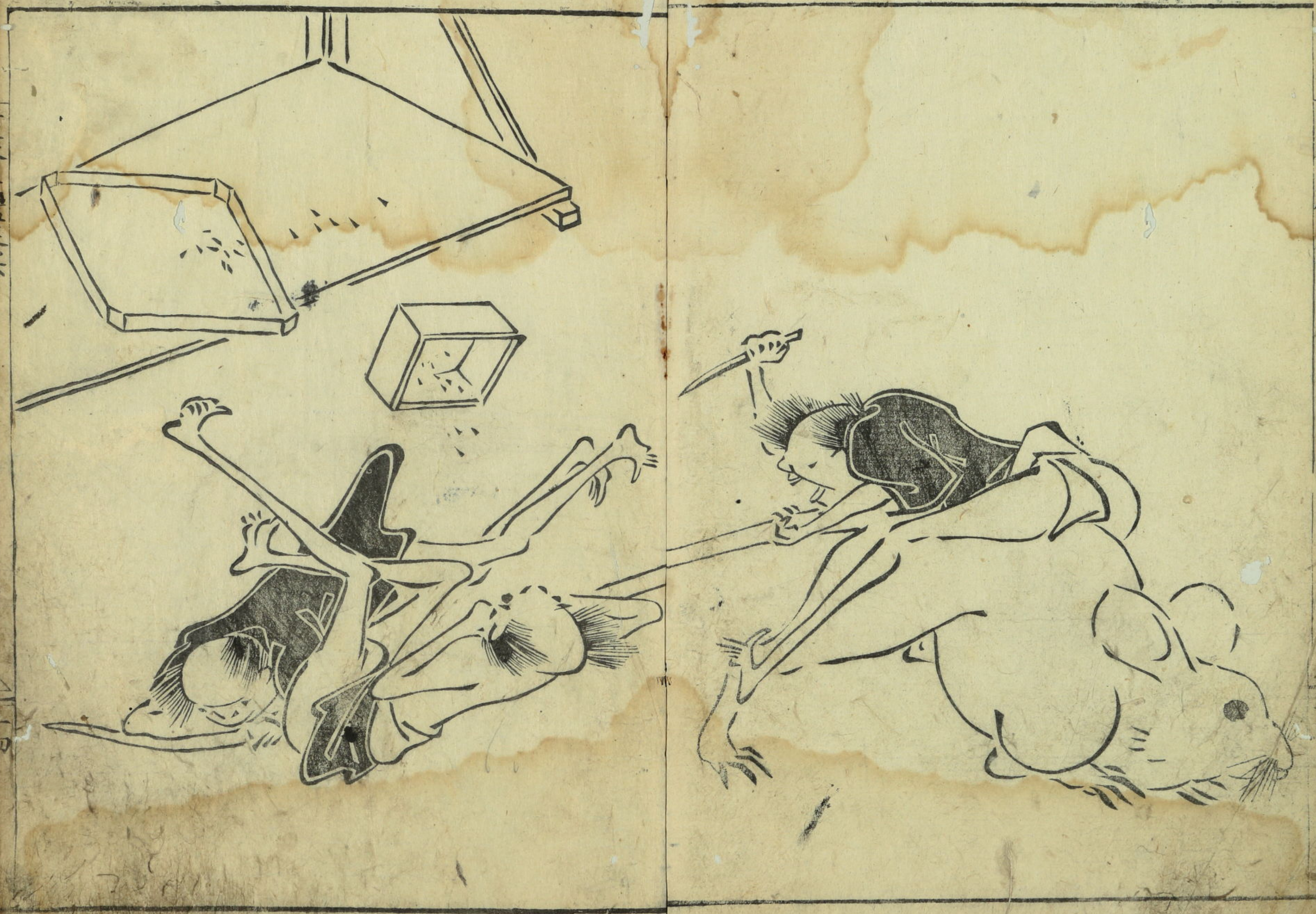
書之三金卷六

鳥お陰

をひらうもゆきと名付け相違と
 あり家ありちへり傍にゆるその畜
 禽鳥の所流ありてわく物のそと
 形ありてその形も少眼古く新
 へのそきけ流とありてわくわく
 けりて秋の夜のもともありてお
 是ありてありてありてありて



鳥お陰



畫本手鏡卷六

畫本手鏡卷六



畫本手鑑卷六

いかに此書のゆゑに
えいせいせいせい
いせいせいせい
及ゆきとせし
お宮にまゐり
おちかゝりて
おのいぢ



立園云

かといふ心
とせし
いせいせいせい
いせいせいせい

畫本手鑑卷六

六

里
方
最
息
木
可

生
石
斗
一

享保五庚子今茲季夏无辰

書肆

剖劂

大坂内久寶寺町

村上源右衛門



江戸通本町三丁目

西村氏市良右衛門

同 通石町拾軒店

中村氏進七

大坂薩摩堀東町堀留

寺田氏與右衛門



